

コードネーム：ドイツ語で「双頭」の意、炎と氷の二つの頭を持つ  
誕生日：8/26 血液型：B

その手の界限では有名で由緒正しい剣術流派の望望の男児として生まれた。血縁関係は父(仁雅)・母・姉が二人(清・真琴)。父親はシネガイドに関する知識があるが、非オーヴァード。の割にはオーヴァードに劣らぬ強さを持っている。この辺の事情に関して大貴君自身は知らない。なお大貴家の分家の者はそこそこオーヴァードが多く、UGNに協力している者も少なからずいる。個人や企業に仕える護衛的な職業の者も多い。

しかし待ち望まれていたというのに、生まれたときからオーヴァードで、退院直後実家でその力を発現・暴走させ、実家を全壊させた。そのために家族と門下生全員に記憶操作がされており、『大貴忠弘』という人間は端から存在しなかったことになっている。なお実家は自身と同じ年の養子をとっており、本来自身がいるべき場所にいるために日々努力をしているらしい。半年ほど前に実家のことを調べる際に、うっかり彼と鉢合わせしてしまっていて、実家の事情は知っている。彼が努力を惜しまぬ『人間』であると判断し、近寄りたくないという理由ではなく、信頼という意味を持って、実家のある街には出向かないようになった。しかし大きな事件があるのであれば、任務の合間を縫ってでも救援に向かうと思われる。

ホームでは『ラムル=セット』中畑侑弥と幼少から共に過ごし、そこに来るまで実母から虐待されていた中畑の心を溶かしたののだが、大貴君はその事実を知らない。

二人は本当の兄弟のように育ち、互いに自分こそ兄であると思っていた。その後『ライトニングガリット』桐生嗚矢と出会い、ひと悶着あったが和解し、三人でつるんでいた姿をよく確認されている。『三馬鹿』の呼び名もこの頃から。実力は十分でチームワークも抜群の三人組であったため、切り離されることもなかったのだが、それ故に小さな問題をいくつも起こしていた。中畑・桐生の名前を付けた。大貴君は家族に自分の記憶がないことを知りながらも、その繋がりを断つことができず、与えられた名前をずっと大切に持っていた。